

関西学院大学 学生会員 ○孫晶晶

関西学院大学 正会員 岡田憲夫

関西学院大学 正会員 松田曜子

1. はじめに

日本はプレートに囲まれた島国であり、地震断層帯が多く、地震が頻繁に発生している。阪神淡路大震災や今回の東日本大震災で大きな被害が生じ、未曾有の被害をもたらした。21世紀は、災害が頻繁に発生する時代になった。地震などの災害を予測することは難しいが、地震被害を事前に予防することはできる。現在では様々な防災対策が既に実施されている。

本研究では、様々なタイプの地域が混在する兵庫県三田市の特徴に着目する。なかでも、JR 三田駅周辺の旧市街地、昔からある伝統的な農村部と新しく開発されたニュータウンの3地域を取り上げる。本研究の目的としては、それぞれの地域で自主防災活動を担うリーダーにインタビューを行い、各地域の特徴を比較して、異なる点を確かめて今後地域特性に適切な防災活動を考えたい。

2. インタビューの概要

インタビュー調査の対象は、三田市3地域の中に防災活動を積極的に取り組む代表として選定した。各対象地域の居住の特性とライフスタイル及び防災意識や活動の状況を把握するために、直接に各対象地域の代表にインタビューを行った。インタビューの内容としては、主に各対象地域の地域特性・近隣のつきあい・防災の取り組みについて調査した。

なお、インタビュー調査の概要を表—1に示す。

表—1 インタビュー調査の概要

	旧市街地	農村部	ニュータウン
調査年月日	2014.8. 20	2014.8. 20	2014.9. 2
調査方法	インタビュー		
調査の目的	各地域の居住の特性とライフスタイル及び防災意識や活動の状況を把握する		
調査の対象者	高次（たかすぎ）区長	乙原（おちばら）区 自主防災会長	狭間が丘（はざまがおか）自主防災会（情報交流会）
調査の内容	区内（または自治会内）の人口構成・地域住民の平均的な居住年数・地域住民の平均的なライフスタイル・地域住民が生活上抱える不安・区（または自治会）の活動、および近隣つきあい・区（または自治会）が抱える課題・区（または自治会）における防災の取り組み・地域内の危険箇所区（または自治会）間の連携		

3. 調査結果と考察

（1）各対象地域の特性

高次地区は駅に近く、商店街や阪急ビルがあり、買い物と交通が便利である。乙原地区は山の奥で、交通手段は車がなければならない。買い物については自宅の農産物を利用したり、生活用品は市内へ買いに行ったりする

ことになっている。狭間が丘地区は、一戸建ての居住タイプが多く、車は主な交通手段になっている。地域内には、インフラが充実していないため、隣の地域のショッピングセンターが活用されている。この調査から、もし災害が起こったら、高次地区以外には、乙原地区と狭間が丘地区は災害の生活インフラ対応に充実とは言えず、これから改善する必要があると考えられる。

また、3地域の災害タイプも異なることを確認した。高次地区は、人口密度、建物密度及び建物の老朽化、木造化の割合が高いため、建物倒壊や延焼火災など地震災害による被害が最も大きい。乙原地区は、山地部が多く、大雨で土砂災害の被害が一番考えられる。狭間が丘地区は、建築基準に基づく新しく形成された市街地のため、建物が災害に強いと考えられ、しかし、新しい住宅地であるという性格から市外からの転入者が多く、住民間の繋がりも弱いため、災害時におけるソフトな面が課題になっている。

(2) 各対象の近隣のつきあい

調査によって各対象地域の住民タイプが異なるが、近隣のつきあいが薄いことが分かった。災害対応に政府や救急隊が応援しに来るまでに、時間がかかり、被害場所の情報も普段より複雑になってくる。また、その際に情報が一番分かる近隣間の救助が大切になっている。三田市の近隣のつきあい及び住民間のコミュニケーションや政府との連携をもっと日常に進むべきだと考えられる。

(3) 各対象の防災活動

高次地区は近隣のつきあいを重視し、防災テーマより住民のコミュニケーションを主に実施している。乙原地区は実際の防災活動より、配布する防災資料に日々努力していることが分かった。狭間が丘地区は自主防災リーダーが積極的に取り組み、防災活動を日常に計画したり実施したりすることが多い。防災に関する対策や活動が様々があるが、それは実際にどのぐらいの効果があるのかを予想しにくい。また、防災活動に参加する人の年齢層が高く、参加者が少ないという課題があるため、これに対する検討も必要だと考える。

4. まとめ

本研究により、三田市地域の地域特性や生活状態及び防災活動についてある程度把握できた。ここからいえることは、三田市の地域特性は旧市街地、農村部ニュータウンによって地域特性と生活状態が様々であり、防災活動を計画する際に把握しておく必要があること、三田市の地理によって地震災害が少ないため、人々の防災意識が低いと見られ、三田市住民の防災意識を高める必要がある。また、地域住民の間もしくは政府との連携についてコミュニケーションを作ることも日常業務にもっと中心に取り組まなければならないと考えられる。

今後の課題としては、今回のインタビューで聞いたことを実際に確かめたいと考える。具体的に三つの課題があると考え。一つ目に、三つの地域の地域特性により、生活タイプがどう変化しているのかを調べたい。例えば、生活時間調査・買い物調査・通勤仕事調査などがある。二つ目に、地域の付き合いは三つの地域とも薄いと言われて、本当に薄いかどうかを調べたいと考える。三つ目に、3地域の危険な所を実際に目に見に行き、どんな現状になっているのかを調べたいと考える。それ以外に、3地域か全三田市を対象にして、住民が防災に対してアンケートを行いたいと考える。このアンケートを通して、三田市の防災意識はどうなっているのかを分析したいと考える。

参考文献

「三田市地域防災計画（平成24年度修正）地震災害対策計画編・風水害等災害計画編」、三田市防災会議
三好庸隆、「郊外ニュータウンの持続的発展方策に関する基礎的研究―兵庫県三田市のニュータウンと既成市街地との比較分析を通して―」PPI計画・設計研究科、2001